

今週のメニュー

■トピックス

◇硬質ポリ塩化ビニル樹脂（塩ビ）製品の紹介：水閘（すいこう）

■随想

◇2005年シリア旅行記 （9）国が違えば

元一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■トピックス

◇硬質ポリ塩化ビニル樹脂（塩ビ）製品の紹介：水閘（すいこう）

塩ビ製品と稲作は農業の中でも深い関りがある。田圃に水を供給する農業用水管路では塩ビ管が数多くの地域で使用されている。また、ここで紹介する「水閘（すいこう）」は水の流れを調節するために設けられた水門のことである。

農業用水で昔から使われている水閘には、大きく分けて「ねじ式水閘」と「水平水閘」の2種類に分けられ、「水平水閘」には、「丸ゴム水閘」、「止水版水閘」等がある。水閘を主に設置する箇所は畦や水路となり、田圃からの排水や取水を管理する。水閘を設置する管路は、水と一緒に泥、草、昆虫、蛇や小動物等も流れてくることがあり、水道用のバルブでは対応が難しい。そこで、これら異物に対応できる水閘の出番となる。なお、水閘本体は主に塩ビ樹脂で製造されており、高い耐久性や耐薬品性を有している。

まず、ねじ式水閘の特徴を下記に記す。

構造：ねじの付いた本体とキャップ、それらを繋ぐ鎖、ゴムシール材等により構成される。

止水性：しっかりと押し付けるため密閉性が高い。

耐久性：塩ビ製の為、耐久性、耐薬品性が高い。

操作性：ねじを回して徐々に開閉するため、操作にやや時間がかかり、畦から下方水路での作業になり操作がし難い。

用途：水田の灌漑・排水管理に広く利用される。



ねじ式水閘

次に水平水閘の中で一般的な丸ゴム水閘の特徴を下記に記す。

構造：弾丸状のゴム栓を操作棒で上下させ、管口を塞いだり開けたりする構造。

止水性：ゴムの弾性で止水するため、十分な密閉が可能。

耐久性：塩ビ製の為、耐久性、耐薬品性が高い。ゴム部分は定期的な交換やメンテナンスが必要。
操作性：操作棒の上下動のみで簡単に操作でき、素早く止水・排水が可能。
用途：水田の畦、水路に設置し灌漑・排水管理を行う場面で使用されている。特に農作業の効率化や負荷低減に役立つ。

現在、日本の農業は農業従事者の高齢化が進み、農作業の負荷軽減が叫ばれている。ここで紹介した「丸ゴム水閘」は田圃等の水管理の作業軽減に役立つ製品であると言える。

一般的な「丸ゴム水閘」から、発展した「収納型水閘」、「水位調整型水閘」等があり、「秋田県認定リサイクル製品」として認定登録されている製品もある。これらの製品は秋田県横手市の株式会社ホーネンにより製造販売され、東北を中心に全国で販売されている。



丸ゴム水閘

ここで、「ホーネン丸ゴム収納水閘」（写真左側）の特徴を紹介する。

- ・土中に設置するタイプの製品で、草刈りなどの農作業の邪魔にもなり難く、耐候性、雪害、強風等に強く耐久性が高い製品である。
- ・最大で約 25cm 下方に稼働するスライドシステムの採用により、現場にて立て管を切断することなく高さを調整できる為、必要以上に廃材を出すことが無く、環境に優しい製品である。
- ・収納 BOX 上部には作業上、十分な余裕を確保しており、排水時、止水栓ゴムを開放したまま上部キャップが使用できる。
- ・一体型スライド収納 BOX 部分には、環境に配慮してリサイクル塩ビ管を使用している。
- ・ホーネン丸ゴム水閘には自社開発した山切りにカットされた弾丸状のゴム製止水栓を使用することにより、高い水密性と操作性を有している。



今後、更なる農作業の軽減や日本の稲作を守る為、製品の品質確保、リサイクル製品の開発はもとより、水閘の自動開閉や水位調整の自動化への挑戦、「田んぼダム」による洪水被害を防止、軽減する取り組みも行っており、期待したい。（田んぼダム：集中豪雨や大雨の際、田んぼを一時的にダムの様にして雨水を一時的に貯留し、時間をかけてゆっくりと下流に流すしくみ）

※製品のお問い合わせやカタログ等の請求は「株式会社ホーネン」にお願いします。

◇2005年シリア旅行記 (9) 国が違えば

元一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

この話題はシリアとは全く関係がありませんが 2005年にはまだこんなことがありました。

いまではこのようなことはないと思いますが…

シリアとは関係ないのですが移動中に起こった出来事の一つ。

シリアまでは日本からの直行便がないのでヨーロッパ経由で移動しました。シリア行の機内ではひたすら寝ていたのであまり気にはなりませんでしたが、シリアからヨーロッパへの帰りの機内でこの事件は起こりました。

窓際のシートでした。喉が渴いたので飲み物を注文しようと思いました。自分でギャレイにもらいに行ってもいいのですが横の席に座っている人たちに悪いと思いアテンダントのコールボタンを押しました。

誰も来ない。

気が付かないのかともう一度コールボタンを押しました。

誰も来ない。

再び繰り返しますが、誰も来ない。

コールボタンを押すとどの席でボタンが押されたか分かるよう席の上にランプが点灯します。私の席の上のランプも点灯しています。キャビンアテンダントが通路を通りましたがそのまま無視。

40分間、ほぼ3分おきにコールボタンを押しましたが誰も来ない。

そのうち、コールするとギャレイのリモコンで勝手に席の上のランプを OFF にされるようになりました。

ついに頭にきてギャレイに突進。

キャビンアテンダント (CA) たちは楽しそうにおしゃべりをしながらサンドイッチを食べていました。

私「先程から何度もコールしているのですが」

CA「知っています。用事があるならギャレイに来てください」

私「飲み物が欲しいのでコールしたのですが」

CA「飲み物は離陸直後と着陸直前に配ります」
私「その間に欲しくなったからコールしました」
CA「規定の時間に配っているので我々は義務を果たしています」
私「コールボタンは何のためにあるのですか？」
CA「飛行機メーカーが勝手に付けたものです」
私「途中、用事があつたり体調が悪くなつたりした場合はどのようにしてキャビンアテンダントに連絡をすればいいのですか？」
CA「そういう人は飛行機に乗るべきではありません」
私「エコノミークラス症候群を知っていますか？」
CA「知っています。機内誌にも予防のために運動をするようにと書いてあります」
私「予防のためには飛行中、十分に水分を摂れとも書いてあります。5時間を越えるフライトなのに途中で飲み物のサービスもしないし、コールしても持ってこないのですか？」
CA「エコノミークラス症候群になりたくないのならビジネスクラス以上に乗ってください。ビジネスクラス以上ならいつでも対応します」
私「エコノミークラスでは乗客が欲しいと言っても飲み物は配らないのですか？」
CA「規定時間に配っています。それ以外の時間どうしても飲みたいのなら自分でギャレイまで取りに来るべきです」
私「それは会社の方針ですか？」
CA「労働組合で決めたことです」
私「会社に報告しますがよろしいですか？」
CA「報告してください。我々は労働組合員で、組合の方針に従っています。組合の方針にクレームをつけるのならもう乗らないでほしい」

この間、管理職であるはずのパーサーもいましたが顔を引きつらせたまま無言。パーサーにクレームを付けるも「Union (労働組合)」と言うばかり。

規定の時間に食事や飲み物を配る際もキャビンアテンダントは乗客に対し「もっと大きな声で答えろ」、「ちょっと待て (結局無視)」と乗客を怒鳴りつけるわ。無視するわ。

ヨーロッパに到着後すぐに会社にクレームを出しましたが会社から「我が国では会社より労働組合の力が強い。労働組合で決めたことならそれに従ってもらうしかない」との回答。

国が違えば考え方や制度が異なるのは当然ですがこの国の客室乗務員組合は乗客の健康をどのように考えているのでしょうか？

世界でもトップクラスの賃金とトップクラスの短い労働時間。何れも労働組合があるから実現できたのかもしれませんが、ちょっと自分たちの権利を主張し過ぎではと感じました。

この航空会社、日本にも就航しているけど、乗客からクレームは出ないのでしょうか？

乗客からのクレームではないのですがこの航空会社こんなこともありました。

成田空港で乗客を乗せ、さあ飛び立つぞと滑走路のスタート位置に行った途端、労働組合からの指令でストに突入。

パイロットも労働組合員だったので、スト決行中は飛行機を動かすことは出来ないと滑走路に留まったままに。

駐日大使やこの国の政府からの説得にも耳を貸さず、滑走路が1本しかない成田空港を数時間に渡り閉鎖（現在は成田空港には2本の滑走路があります）。

他の航空会社からの強い抗議で、パイロットが飛行機を動かさないのなら他の方法で動かすしかないと言った空港公団が強引にトーイングカー（牽引車）で滑走路から移動することに。

その際、ブレーキの解除を誰が行うかでも大揉め。

パイロットはブレーキの解除を行うことは飛行機の操作に該当しスト破りになるとこれを拒否。結局、整備員が地上からブレーキを解除し飛行機を移動させたという「スト命！」のお国柄。

この間、機内では一切のサービスはなく空調も止まったままで体調を崩した人も。

労働組合の指令は他人の迷惑や政府よりも優先するという事なのでしょうね。

国によって考え方は本当に異なることを実感した出来事でした。

（おわり）

⇒ [バックナンバー](#)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp